

平成24年度 協働事業振返り調査票

協働事業の名称 生ごみ堆肥化の段ボールコンポスト製作

所属名(団体名) NPO法人 生ごみ減量研究会

1 事業の振返り

振返り項目	振返り結果 1～5を記入	コメント(理由、感想、気づいたことなど)
1-1 協働相手の選定(市) 協働相手を公募しましたか。公募しない場合は、選定理由を明確にしましたか。		
1-2 協働相手の選定(団体等) この事業の協働相手として自分の団体はふさわしい団体でしたか。	5	本法人の持つ生ごみ減量化の知識と実践力の面からふさわしい
2 目的の共有 事業の目的・目標を共有しましたか。	5	生ごみの減量化、市民が生ごみ減量化実施への動機づけについて共有
3 目的・目標の達成 事業の目的・目標は達成できましたか。	5	本事業としては初期の目的・目標は達成したと思われる。受講者が続いているかどうかはアンケートによらないとわからない
4 事業実施中の意見や情報の交換 適宜、意見や情報の交換を行い、必要に応じ協議事項の見直しを行うなど、柔軟に対応できましたか。	5	柔軟に対応できた。講習会開催中、意見や情報交換はかなり頻繁に行われた。実施後、市と協議に事項の見直しを行った
総合コメント 千葉市のごみ減量戦略の一環として「生ごみ堆肥化の段ボールコンポスト製作」講習会は目的・目標を十分達成したと考えられる		

2 協働の振返り

振返り項目	振返り結果 1～5を記入	コメント(理由、感想、気づいたことなど)
1-1 協働の形態の選択(市) 選択した協働の形態(委託、共催、事業協力、支援・補助)は適切でしたか。		
1-2 協働の形態の選択(団体等) 自らの特性を活かせる連携方法でしたか。	5	当法人の主力事業の経験を基に実施し、運営できた
2 協働の意義の明確化 協働で実施する必要性やねらいを明確にしましたか。	4	生ごみ減量化の必要性は受講者に明確に伝えられたが、実施回数が少ないことには疑問が残る
3 主体性・自主性の尊重 お互いを理解し、尊重して事業を進めましたか。	5	お互いの立場を理解し、尊重して事業を進めることができた
4 役割と責任の自覚 役割分担や責任の所在が明確でしたか。	5	事業の企画、準備・実施にわたり本法人の責任をもって実施した
5 協働の成果 協働ならではの成果はありましたか。また、副次的な効果はありましたか。 副次的効果：会員が増えた、会員や職員の育成につながった、新たな事業展開や課題解決方法が見つかった等	5	会場を予め確保していただいたこと。 生ごみ資源化アドバイザーの活用が図られ、会員のスキルアップにつながった
総合コメント 本事業の実施をとおして、市との交流と信頼関係の構築ができた		

この振返りは、協働事業を行った双方が、協働事業への理解を深め、良好なパートナーシップを構築することにより、お互いに成長し、また、よりよい協働事業の発展につなげるために実施するものです。得点の高低や事業の優劣をつけ